

第13回研究会 (オンライン開催)

『オリパラをあらためて原理的、構造的に考える』



2021年
10月16日(土)

9:00~18:00

個人報告 (9:00~11:35)

富田幸祐 (日本体育大学)

「アジアGANEFO (1966) 開催と日本からの参加」

内海和雄 (一橋大学・広島経済大学名誉教授)

「ラグビーとイギリス資本主義—スポーツと歴史・社会—」

シンポジウム (12:30~18:00)

テーマ オリンピック・パラリンピックをあらためて原理的・構造的に考える—オリンピック、パラリンピックとは何か、いま資本主義のどのような局面に位置しているのか、そしてその将来をどのように考えていくべきか—Voi.1.0

<報告1> 12:35~ **柵山研** (羽衣国際大学)

「はじめに一結局、2020東京オリ・パラはいかに語られたのか (語られなかったのか) ?」

<報告2> 13:40~ **市井吉興** (立命館大学)

「オリンピック・ムーブメントの『転換点』としての2020年東京オリンピック: 創造的 復興・生政治・資本主義リアリズム」

<報告3> 14:40~ **山下高行** (立命館大学名誉教授)

「倫理・道徳制度としてのオリンピック考—オリンピックのヘゲモニー構造とその倫理・道徳的内容と性格の歴史の変遷—」

<報告4> 15:50~ **功刀俊雄** (奈良女子大学)

「パラリンピック・障害者スポーツと文化的に生きる権利」

<全体討論とまとめ> 17:00~

お申込みは下記まで

事務局メール science@njsf.net TEL 03-5834-8726 FAX 03-5834-8723

新日本スポーツ連盟附属スポーツ科学研究所 第13回研究会（オンライン開催） シンポジウム（12：30～18：00）

テーマ

オリンピック・パラリンピックをあらためて原理的・構造的に考える

—オリンピック、パラリンピックとは何か、いま資本主義のどのような局面に位置しているのか、そしてその将来をどのように考えていくべきか—Voi.1.0

シンポジウムの主旨

コロナ禍で行われた 2020 東京オリパラが終わりました。今回のオリパラはこれまで以上に様々な議論が出されましたが、とりわけコロナの世界的な蔓延という中で行われたことから、オリンピックをそこまでして行う意味は何なのか、という根本にまで遡った深い議論が現われたことが特徴的です。政府もその意義を説明できませんでしたので、オリンピックの廃止という声さえも起こりました。

たしかにオリンピックを行う意味はどこにあるのでしょうか。議論のなかでは、「そもそも」、「クーベルタンは」という不正確で無定見な根拠からの議論が行われるのをしばしば目にしましたが、私たちもあらためて原理的な次元にまで遡ってそれを考えることが必要です。それは共生社会の実現という今回の大会でテーマ化した特徴に即してみても重要です。それとともに、それを規定している今日のオリンピックが資本主義のどのような局面の中に位置しているのかという、歴史的、構造的な見地から見ることも必要です。この作業は膨大なものとなり、今回はそのとっかかりにすぎませんが、大枠にあたる部分を議論したいと思います。

お申し込み方法

下記の事務局メール（または電話・FAX）で「お名前」「メールアドレス」「電話番号」を事務局に伝えて、お申込みください。後日、Zoom の入室アドレスをお送りします。

※Zoom（パソコンやスマートフォンを使って、セミナーやミーティングをオンラインで開催するためのアプリ）を使用して、配信します。

※Web セミナーを受講するには、あらかじめ Zoom をパソコンまたはスマートフォンにインストールしておく必要があります。

ご不明な点がございましたら、事務局までお気軽にお問い合わせください

事務局 メール science@njsf.net

TEL 03-5834-8726 FAX 03-5834-8723